



メールマガジン

2007年11月号 (Vol.2 No.11)

2007/11/30

目次

○ トピックス

「農産品国際貿易と食品安全」中日学術シンポジウム 開催
九州大学生物資源環境科学学府への推薦留学生面接会
九大北京事務所スタッフ 懇親会
恒例の希平会

○ 2008年オリンピック特集

○ 九大人

中国薬科大学学長 吳曉明

○ 中日最前線

○ Q-ナビ

○ 第三回東アジア農業資源環境フォーラムのご案内

メールマガジンへの寄稿

去年4月に九州大学北京事務所の設置に伴い、事務所の情報発信手段として、本メールマガジンが創刊されました。さまざまな不安材料を抱えての船出でしたが、今では約数千人の方々に毎月配信するまでになりました。これらも、ひとえに皆様のご支援のおかげでございます。

この一年を繰り替えて見れば、本メールマガジンは皆さんの期待に答える情報交換の機能を果たしてきたわけではありません。情報収集、編集の力が不足で、作業が追いつかないため、提供した情報の量が少ないのみでなく、未完成的なままで掲載してしまった記事も数多くあり、反省することしきりです。

年が改まるというのは、単に時間が経過したにすぎません。しかし、時間が経過したということは、いつまでも進歩なしままで許されるわけではないと受け止めています。今年は、「九大人」、「中日最前線」、「ミニリサーチ」、「Q-ナビ」などのコーナーを設け、皆様からの情報をお募りしながら、本メールマガジンの内容を充実することを図っています。この目標を実現するため、事務所一丸となって努力してまいりますので、読者の皆様も是非とも応援のほどよろしくお願いいたします。

ご寄稿くださる場合は、電子メールまたはファックスにて、九州大学北京事務所宛にお送りください。電子ファイルを添付していただくと、編集が効率的にできます。お読みになってのご意見やご感想をもお待ちしております。

編集代表者:九州大学北京事務所長 九州大学中国同窓会事務局長 宋 敏

発行:九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局

住所:〒100086 北京市海淀区中関村南大街甲6号鑄誠大厦B座2008室

電話:+86-10-5158-1387 ファックス:+86-10-5158-1367

メール:peiking_office@yahoo.co.jp (日本語)

kyudai_ob@kyushu-ucn.net, kyudai_ob@126.com (中文)

トピックス

1 「農産品国際貿易と食品安全」中日学術シンポジウム 開催

11月17日(土)、中国人民大学の農業与農村発展学院と九州大学農業資源経済学部門が共催した「農産品国際貿易と食品安全」中日学術シンポジウムが、中国人民大学明德主楼931号会議室にて開催された。人大農発院の温鉄軍院長と九大農業資源経済学部門の伊東正一部門長の開会挨拶に続き、日本農業経済学会会長甲斐諭教授は、「経済グローバル化時代の食品安全と国際貿易」、北京農業経済学会会長唐忠教授は「東アジアFTAの各可能性及び中国農産品貿易への影響」をテーマとして基調講演を行った。また、「国際貿易とコメ市場」、「企業行為と消費者の態度」、「農業生産と技術転換」の三つのサブテーマについてそれぞれの研究成果を発表し、ディスカッションを行った。さらに両学部間の学生交流や研究協力及び次期のシンポジウムの開催などについても、意見交換を行った。シンポジウムには九州大学、人大農発院、中国農業科学院の教授や学生数十人が参加した。九州大学北京事務所宋敏所長もシンポジウムに出席。



2 九州大学生物資源環境科学学府への推薦留学生 面接会

11月24日(土)3時より、九州大学生物資源環境科学学府長の依頼で、九州大学生物資源環境科学学府への推薦留学生の面接会が九大北京事務所で行われた。この面接会は生物資源環境科学学府にある文部省奨学金留学プログラムである国際開発特別コースに優秀な中国人学生を推薦するための選考プロセスの一環として行われた。面接会には中国人民大学などの中国トップの大学から絞り出した七人の候補者が参加。まず宋敏所長は日本文部科学省奨学金や九州大学生物資源環境学府及び今回の面接要領などを紹介。そして受験生は、一人ずつ15分で大学在学期間の勉強成果や将来の研究計画などについて紹介した後、英語スピーチや質問回答などを通して自己をアプローチした。選考委員会は書類審査、面接を通して、各学生の学力、研究能力及び性格を総合的に考慮し、厳正な選考を行い、絞り出した候補者を生物資源科学府に

■ トピックス ■

推薦。選考委員会は九大北京事務所宋敏所長、徐懷李副所長、李同帰副所長、王志剛副所長より構成(杜孝平副所長は出張のため、欠席)。



3 九大北京事務所スタッフ懇親会 開催

厳しい寒さが続き、旧年を送り新年を迎える季節に、九州大学北京事務所スタッフ懇親会が11月24日に行われた。

事務所のスタッフ及びOBが事務所に集まり、この1年の仕事を振り返えながら、来年の事務所活動や仕事などについてディスカッション。そして懇親会では、それぞれの近況や新年の抱負などを語りながら、美味しい中華料理とカラオケで楽しい時間を過ごした。懇親会には事務所で働いていた馬さんと鞠さんも参加した。



4 恒例の希平会 開催

11月30日(金)、恒例の「希平会」(日中高等教育交流北京連絡会)が、早稲田大学北京事務所(北京中関村資源大厦)にて開かれた。会議では、湖北ジャパンウィークに関する情報交換を踏まえて、今後の留学説明会の進め方についてディスカッションした。また、中国政府5千人派遣計画に関する最新情報を交換し、各機関からの報告、意見・情報交換などを行った。会議終了後、懇親会を持ち、四川料理を楽しめながら、親睦を深めた。九大北京事務所の宋敏所長が出席。

■2008年オリンピック特集■



この特集は、2008年五輪に注目し、今から開催までの最新情報、マスコット、関連施設紹介または主開催地である北京での観光や娯楽を皆さんに紹介致します。寄稿や意見などはe-mailでお送りください。

最新情報



8カ国語音声つき五輪地図 来年お目見え

http://j.peopledaily.com.cn/2007/11/12/jp20071112_79537.html

北京五輪の公式採用カメラが初公開

http://j.peopledaily.com.cn/2007/11/21/jp20071121_79998.html

北京五輪の外国語ボランティア不足 留学生も参加可

http://j.peopledaily.com.cn/2007/11/21/jp20071121_80016.html

選手村には食品安全システム

http://j.peopledaily.com.cn/2007/11/16/jp20071116_79776.html

国家体育館が完成

<http://japanese.cri.cn/151/2007/11/23/1@107759.htm>



五輪のエンブレム



印章の主体は、基調の色彩に赤を選択している。鮮やかな赤は、中国文化特有の情熱や喜びの雰囲気を与えるものだ。寓意に満ちた図形の、たとえば「京」と「中国の印章 舞い」という字のようなものは、祭典「踊る北京」を設計しが行われる地名を表している。郭春寧氏と同時に、ゴールに向かう選手のようにもあり、オリンピック精神の追求を体現している。また歌いながら踊る人のようでもあって、これは中国人のオリンピック運動への憧れや、世界から来る賓客を迎える熱情と真心を表現している。
http://japanese.china.org.cn/olympic/2007-06/05/content_8345536.htm



関連施設紹介



老山自転車競技場

北京市石景山区にある老山国家体育総局の自転車とフェンシング運動管理センター西側にある。用地の広さは6.6ヘクタールで建築面積は32920平方メートル。館内は、周長250Mのコースを持ち、6000人収容の観客席がある。バタフライ形の外観は選手のヘルメットの形をイメージしており、スピード感を感じさせる作りだ。竣工すれば、国内唯一の木造室内レース場となる。2008北京五輪ではここで自転車競技12個の金メダルの行方が決まる。

北京・東眺西望

かつて皇族の邸宅で、今は庶民に開放されている美しい庭園・恭王府。その歴史は、清代乾隆年間にさかのぼる。当時の姿を完全な形でとどめており、過ぎ去った200年余りの歳月に歴史的、文化的な重みを感じられる。



恭王府

恭王府の敷地面積は約6万平方メートル。脚を踏み入れると、雄大な建築物が目飛び込んでくる。優れた工芸技術に精巧な配置、交錯する楼閣。至るところに皇室の庭園としての輝きと華麗な風格が漂う。中軸線の両側に、東西南北に家屋が並ぶ典型的な四合院が南北に4棟ずつ立っている。現存する建物の面積は1万2000平方メートル。皇室の風格と厳粛さ、民間建築の精巧さと装飾が織り成す「王府」の文化が最大の特徴だ。一般に開放されて以降、恭王府では清朝の庭園がもつ魅力を活用した生け花展、盆栽展、日本の茶道展、フランスの芸術家の公演など、対外文化交流活動が行われてきた。

■ 九大人 ■

時計の針が止まらず
歳月がここに留まる
九州大学北京事務所
九大人がここにいる

本コーナーでは、ミニ事典、現場直撃レポート、インタビュー、奮闘記などの側面から、九大OB及び九大の先生や教職員を描きます。人選は事務所で選ぶと同時に、ご紹介になりたい方も募集。投稿はE-mailでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不相当と思われる内容は掲載しません。

吳曉明

☆☆☆☆☆

中国薬科大学の学長
中国薬学会副理事長



足 跡

1972年—1975年 南京薬学院化学製薬学科
1975年—1982年 南京薬学院薬化教研室助手
1982年—1984年 日本東北大学薬学部
1984年—1986年 南京薬学院薬化教研室助手
1986年—1990年 中国薬科大学外事事務室副主任、講師
1990年—1993年 日本九州大学薬学院で博士に専攻
1993年—1994年 中国薬科大学薬学院副院長
1994年—1995年 中国薬科大学薬学院院長
1995年—1996年 中国薬科大学副学長と薬学院院長
1996年—1997年 中国薬科大学常務副校長
1997年6月—今 中国薬科大学学長

ミニ事典

中国薬科大学は薬学を専門に研究する専門学校として、1936年に中国に初めて設置された国立薬科専門学校である。その後、1950年6月華南薬学専科学校、1952年11月華南薬学院、1956年南京薬学院と改称し、1986年10月南京中薬学校と合併して、中国薬科大学となり、現在に至っている。「精業濟郡」を校訓とし、中薬学院、薬学院、生物製薬学院、国際医薬ビジネス学校など10の学部、薬学、製薬工程、食品品質と安全など18この専攻を有している。学部生8370名、修士及び博士が1756名が在籍し、教員1462名ほどが勤めている。

1980年代に、中国薬科大学と九州大学薬学部とは学術交流協定が締結した。



<http://www.cpu.edu.cn/>

■ 中日最前線 ■



ようこそ！中日最前線は、今月の焦点、流行傾向、最新動き、注意喚起などのテーマで、さまざまな記事やニュースを収集し、みなさんにお届けします。さあ～お読みになってのご意見、ご感想やアドバイスをお待ちしています。

最新動き

メディアフォーカス『南風窓』 ——過ぎ去りし日本留学神話

2007年5月、日本政府は2025年までに外国からの留学生の受け入れを35万人に増やすという方針を打ち出した。1983年に日本政府が「留学生受け入れ10万人計画」を推進したことを思い出すにはいられない。

当時、そのプロジェクトのために中国の学生や研究者が日本を「留学の聖地」と見なし、日本留学ブームがその後20年間続くことになった。2003年、日本にいる中国人留学生は7万人以上に達し、日本における留学生全体の67%を占めた。しかし、中日関係の複雑化に伴い、2004年以降日本が批准した中国からの留学生はわずか20%のみとなり、中国人の日本留学への道は「氷河時代」に入った。

このような日本の状況に対し、欧米諸国は留学生の審査・許可制度の簡素化や奨学金増加などの措置を実施し、学生を奪い合った。そうした国々は留学生から相当の収入を得ると同時に、社会に役立つ大勢の優秀な外国の人材を取り込むことになった。一方、「少子化」という問題を抱える日本は2003年、17カ所の大学が学生不足によって閉校に追い込まれた。「35万人計画」は、日本が危機感を抱いての政策的調整だと言えるだろう。

24年の時を経て、日本留学を志向する中国の学生たちは理性的に、日本での生活環境や留学後の発展方向などの要素に基づいて、その魅力の所在を考えるようになった。多くの中国人にとって日本留学は、人生の選択肢のひとつから人生経験のひとつになったのである。

<http://www.peoplechina.com.cn/maindoc/html/200710/07focus.htm>

★ トレンドキャッチ ★

広州国際モーターショー開催 新エネルギー自動車を披露

広州市で20日から26日まで開催されている「第5回中国(広州)国際モーターショー」では、コンセプトカー20台と新型車80台以上、多くのメーカーから新エネルギーを利用した新型車が出展され、広州市民の目を楽しませている。



広州汽車集団が自主開発した「AHEV」



トヨタ自動車のハイブリッド・コンセプトカー「HYBRID-X」

今月の焦点



中日首脳会談、ハイレベル相互訪問の維持で一致

温家宝総理は20日シンガポールで福田康夫首相と会談した。

席上、福田首相は「温総理の今年4月の訪日は、日本国民の中国への友好感情を高め、日中関係の改善を力強く促した。双方の今後共通の中心課題は戦略的互惠関係の推進だ。来年は日中平和友好条約締結30周年にあたり、北京ではオリンピックも開かれる。これを契機として、経済・貿易・防衛・環境保護・人文分野の交流と協力を拡大し、国際・地域問題における意思疎通と協調を強化していきたい。話し合いを通じて、東中国海問題の適切な解決案ができるだけ早く見出されることを希望する」と述べた。また「台湾問題における日本の立場は一貫しており、変更はない」と福田首相は声明した。

一方、温総理は「中国は対日関係を高度に重視しており、これまでと同様に中日友好政策を堅持し、日本との長期安定的な善隣友好協力関係の発展に尽力していく。日本側と共に努力し、両国関係の改善・発展基調を引き続き保持し、各分野の協力における一層の発展を促していくことを望んでいる」と強調した。

なお、双方は来年を「中日青少年友好交流年」とすることで合意した。

写真 http://j.peopledaily.com.cn/2007/11/21/jp20071121_79991.html

■Q-ナビ■



Q-ナビコーナーは、情報カレンダー、今月の見どころ、九州知恵袋、旬の味等のテーマで、九州大学、九州などを中心として、日本と中国に関する情報を発信します。皆さんにも役に立つ情報を募集致します。寄稿は、e-mailにてお送りください。

情報カレンダー

11月1日 2008年度赴日中国政府派遣研究院項目コラム

<http://www.csc.edu.cn/gb/readarticle/readarticle.asp?articleid=2609>

11月7日 中国人自費留学に向けた仲介期間の更新リスト

<http://www.moe.gov.cn/edoas/website18/level3.jsp?tablename=326&infolid=15774>

11月15日 11月20日より日本の新しい入国審査の実施が開始

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/student/page1-34/page030.htm>

11月19日 2007年度自費留学人数の統計通知(情報提出は、12月3日に締め切り)

<http://www.jsj.edu.cn/dongtai/056.html>

11月26日 2008年度「国家公派研究生項目」募集情報

<http://www.csc.edu.cn/gb/readarticle/readarticle.asp?articleid=2627>

11月27日 平成19年度私費留学生のための奨学金情報を更新した<現在募集中>

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/student/page1-34/page012.htm>

今月の見どころ



12.01-12.15 現代劇『Cryptographクリプトグラフ』(北京・上海)
『海と日傘』(北京) 中国公演

http://www.cn.emb-japan.go.jp/cul_edu_j/events071205_j.htm



12.02-12.10 劇団文化座『天国までの百マイル』中国公演

http://www.cn.emb-japan.go.jp/cul_edu_j/events071202_j.htm



12.08-12.09 歌舞集『南海のムリカ星』中国公演

http://www.cn.emb-japan.go.jp/cul_edu_j/events071208_j.htm

紅葉狩り



日本では昔から、桜が春を象徴するように、紅葉は秋を象徴するものになっている。これを鑑賞しに出かけることを「紅葉狩り」と呼んで、春の花見と並ぶ代表的な季節行事として、日本人の生活に深く根ざしているのだ。紅葉前線とは、よく聞く桜前線や花粉前線などのように、日本列島の北から南、または南から北へと進む前線のことだが、紅葉の場合は北から南へ進む。紅葉前線は、10月初旬の

北海道の大雪山周辺から始まる。徐々に南下し、和歌山県、高知県などの大平洋の海岸部では12月初旬までかかる。

中国でも日本と同じく、紅葉狩りはこの時期の代表的レジャーの一つだ。北京の秋を代表するのが紅葉の風景。例年、大体10月の末頃から11月の初め頃までの間で、気温の低下が例年より早い場合、紅葉の時期も早まることがある。

紅葉狩りの場所といえば、北京の香山が最も知られている。なぜ「香りの山」と書くのかというと、昔、香山では、山一面にアズの花が咲いていて、花咲く季節になると、辺り一面にアズの花の香りが漂い、人々を魅了したから、だそうだ。



